

## 横田のメンバー、JWA日本祭で日本伝統の魅力を体験 *Yokota honors host nation traditions during Japan Culture Day*

February 1, 2024

By Airman 1st Class Jarrett Smith  
374th Airlift Wing Public Affairs

1月26日、横田基地で日本祭が行われ、基地のメンバーがさまざまな日本の伝統文化に触れた。会場には日本人従業員と米軍関係者あわせて600人以上が集まり、新年の門出を祝った。

日本祭は、横田基地の日本人従業員と基地住民の士気高揚、福利厚生、レクリエーションのサービスを提供している日本人福祉協会(JWA)が主催した。この催しは、日本人従業員のための食堂「OFUKUROYA」がある場所で、2013年から行われている。

JWAは、1947年の第二次世界大戦復興期に、日本人従業員の生活の質を向上させることを目的に発足した。今では、日米のコミュニティーの懸け橋となり、日本の伝統を共有する機会等を設けている。

JWAの浦野和人会長は、「このイベントを成功に導いてくださったすべての方々に心から感謝しています。皆様のご支援とご尽力のおかげで、このイベントを開催することができました。一人ひとりに心からお礼を申し上げます」と関係者への謝意を表した。

参加者は、サムライ太鼓チームの和太鼓演奏、餅つき、着付け、お茶、来賓による鏡開きなど、さまざまな催しを楽しんだ。

場内では、餅入りの雑煮と汁粉といった日本の伝統的な料理が300杯ふるまわれ、先着300名に景品が当たる抽選会もあった。また、OFUKUROYAは、目新しい日本食を楽しんでもらおうと特別メニューを提供した。

イベントには、来賓として第374空輸航空団司令官アンドリュー・ラダン大佐、同副司令官ブレット・コ克蘭大佐、同最先任上級曹長ジェリー・ダン最上級曹長らも招かれた。

ラダン大佐は、「この新年の祝いの席にお招きくださった浦野さん、そして日本人福祉協会の皆様に感謝いたします。このお祭りを通し、皆様のご多幸と日米友好のさらなる発展をお祈り申し上げます」と挨拶した。

横田基地では、基地内外のコミュニティーを重視している。その取り組みとして、交流を推進し、パートナーシップの継続とコミュニティーの士気と知識向上に努めている。

